

秋しゅう
日じつ

耿こう

漳じやう

返照へんしやう
閭巷りやう
入い
るる

憂うれ
来きた
て
誰たれ
共とも
に
語かた
らん

古道こどう
人ひと
の
行ゆ
く
こ
少まれ
なな

秋風しゅうふう
禾か
黍しよ
を
動うご
かす

【作者】

耿漳（七三四年〜？）東河（山西省永濟市）出身。七六三年（宝応二年）に進士及第。大理司から左拾遺に至った。『耿拾遺詩集』一卷が現在に伝わっている。唐の肅宗の時代、大唐十才子の一人といわれています。

【語釈】

- *返照…照り返し。または夕日の光。
- *閭巷…閭は、二十五戸を単位とする村。巷は、その中の小路。閭巷で村里。
- *禾黍…禾は、イネ、黍は、キビ。また禾は、穀物の総称。

【通釈】

夕日がひとけのない村に照り返し、わびしい思いがこみ上げてくるが、村の小路には、行きかう人もなく、それを語る相手もない。ただ、キビの葉ばかりが秋風に揺れさやさやと音を立てている。